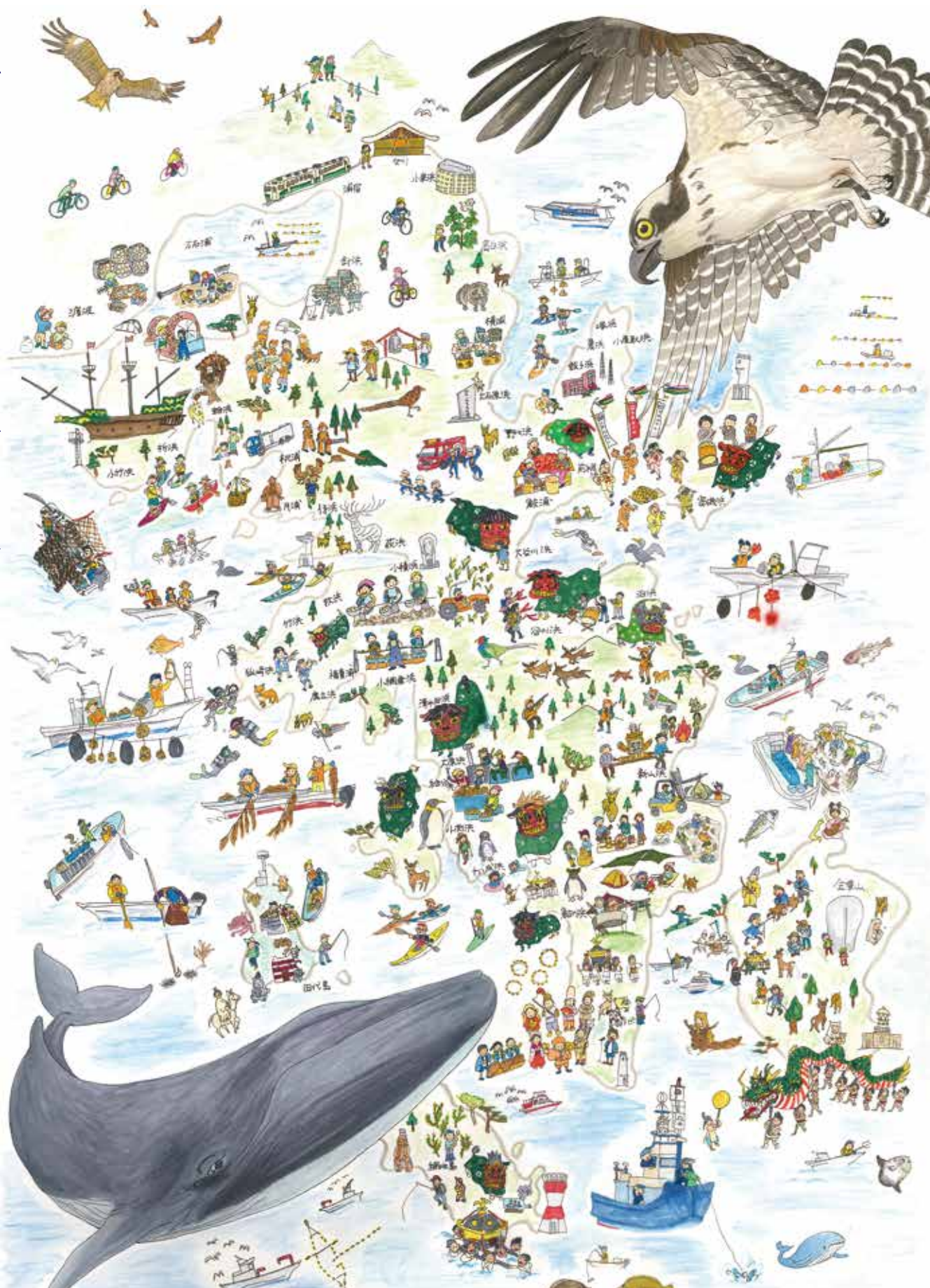


# 牡鹿半島・海と浜のトリビア

宮城県慶長使節船ミュージアム令和3年度特別展

MIYAGI SANT JUAN BAUTISTA MUSEUM



令和3年 **9月1日** 水 ~ **11月29日** 月

サン・ファン館展望棟 企画展示室

【入館料】 一般350円(高校生以下無料)  
 【開館時間】 午前9時30分~午後4時30分  
 ※最終入館は閉館30分前まで  
 【休館日】 毎週火曜日(祝日を除く)

なかのかな



**サン・ファン館**

宮城県慶長使節船ミュージアム

〒986-2135 宮城県石巻市渡波字大森30-2

TEL:0225-24-2210 FAX:0225-97-3399

URL <https://www.santjuan.or.jp/>

E-mail [info@santjuan.or.jp](mailto:info@santjuan.or.jp)

サン・ファン館の最新情報については  
**コチラ**より  
 ご覧ください。

■主催：公益財団法人慶長遣欧使節船協会 ■後援：宮城県、石巻市、河北新報社、三陸河北新報社(石巻かほく)、石巻日日新聞社、ラジオ石巻FM76.4  
 ■協力：武蔵野美術大学、石巻市教育委員会、おしかホエールランド、人間文化研究機構広領域型基幹研究「日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築」  
 ■特別協力：国立民族学博物館





特別展

MIYAGI SANT JUAN BAUTISTA MUSEUM

# 牡鹿半島・

# 海と浜の

TEN

# トリビア10

令和3年9月1日(水)~11月29日(月)

この特別展では、東日本大震災で被災し、文化財レスキューされた資料も多数展示します。これらの資料は、令和3年3月~5月に国立民族学博物館で開催された特別展「復興を支える地域の文化 3.11から10年」で公開され、本展はその特別展の一部を巡回展として再構成したものです。

企画は、武蔵野美術大学加藤幸治教授の監修のもと、当館と石巻市博物館(令和3年度秋オープン予定)、おしかホエールランドが参加し、それぞれの館の特長を生かした共同企画となっております。

支倉常長らが航海に旅立った江戸時代初めごろ、三陸の豊かな漁場で人々は豊富な魚介類を日常的にとってきました。浜の人々が協力しておこなう漁業は江戸時代に発達し、明治時代以降は動力船の普及や養殖技術の発展により、日本の水産業の最前線となっていきました。

同じく江戸時代初め、牡鹿半島の金華山沖にはたくさんの鯨類がいたはずですが、人々は海洋に出てこの巨大な動物を捕獲する術を持ちませんでした。しかし、何かのきっかけで浅瀬に乗り上げてしまったクジラを「寄り鯨」として利用する伝統があり、明治末期からは日本の近代捕鯨の最前線となっていきました。

浜の生活や、海の生きものとの関わりには、挙げ始めたら切りがないほどの牡鹿半島の魅力が詰まっています。今回の特別展では、牡鹿半島の歴史、浜のくらしとなりわい、生きものの不思議、言葉のおもしろさなど、いろいろなテーマの“ちょっと人に教えたいくなるような”、10のトリビア(雑学・豆知識)として紹介します。親子で楽しめる展示となっておりますので、地域文化を再発見してみてください。

trivia



人が入るほどの竹かご、何に使う?

生簀(石巻市教育委員会所蔵)

trivia



鮎川のシンボルの三角屋根とは?

山家利治「鮎川港風景」(石巻市牡鹿総合支所所蔵)

trivia



超貴重! 明治の手回しオルゴール紙腔琴とは?

しんごう紙腔琴(石巻市教育委員会所蔵)



trivia



ジェンツーペンギンとオウサマペンギンの剥製(割烹民宿めぐろ所蔵)

trivia



ミンククジラのひげ板(おしかホエールランド)

trivia



昔の宮城の人びとのくらしが海外で知られていた!?

『伊達政宗遣欧使節記』(イタリア語版)(宮城県慶長使節船ミュージアム所蔵)



サン・ファン館  
宮城県慶長使節船ミュージアム

〒986-2135 宮城県石巻市渡波字大森30-2  
TEL:0225-24-2210 FAX:0225-97-3399  
URL <https://www.santjuan.or.jp/>  
E-mail [info@santjuan.or.jp](mailto:info@santjuan.or.jp)

【入館料】 一般350円(高校生以下無料)  
【開館時間】 午前9時30分~午後4時30分  
※最終入館は閉館30分前まで  
【休館日】 毎週火曜日(祝日を除く)、年末年始